

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

法人名	株式会社チャイルド・ピース
施設名	小鳩ナーサリースクール中馬込
施設所在地	大田区中馬込2-2-18

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光と影

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

本園では「夢中になって遊ぶ子ども～遊びを支える保育者の援助と環境について～」を令和7年度の園内研究主題として掲げている。1歳児から5歳児までが生活する中で、年齢や発達に応じて、自分の身の回りの環境に関心を持ち、遊びに取り入れる姿が見られる。

子どもは日々の遊びや生活の中で、太陽の光や室内の照明、物に映る影の動きなどに気づき、立ち止まって見たり、触れたりしながら確かめようとする姿が見られる。園庭はないが、室内環境や窓際の空間を通して、光や影の変化を感じ取る様子がうかがえる。

こうした子どもの興味や感覚を大切に、光の当たり方や影の形の違いを、日常の保育環境の中で無理なく味わえるようにしていきたい。子どもが自分なりに気づき、試す姿を保育者がそばで見守りながら関わっていけるよう、本テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

4歳児 1回(9月1回) / 5歳児 1回(9月1回)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

【環境】 保育室内にセロファンを用いた壁面を設置したり、光の当たり方や影の向きを意識して物を配置したりすることで、日常の中でも光や影に気付ける環境を整えた。また、懐中電灯を使って光を当てることができるようにし、子どもが自分で光を動かしながら関わられるようにした。

【素材・道具】 プラコップ、懐中電灯、スズランテープ、テープ、画用紙、カラーセロファン、カラーペン、のり、ペットボトル

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【②問いを考える】

子どもに「光ってなんだろう」「どんなものが光るのかな」と問いかけ、考えを引き出した。子どもからは「おひさま」「電気が明るくなったり暗くなったりする」などの意見が出された。これらを受け止めながら、「こんな光もあるよ」と保育者が懐中電灯を提示し、光への関心が広がるようにした。

【③環境をデザインする】

懐中電灯を製作コーナー付近に配置し、子どもが自由に手に取って試せるようにした。セロファンや画用紙、スズランテープ等の素材を用意し、光の見え方や変化を確かめながら製作に取り組める環境を構成した。

【④探求活動を実践し、記録する】

ペンで模様を描いたり、セロファンや画用紙、スズランテープ等の素材を用いて自由に製作を行った。完成した作品に懐中電灯の光を当て、光の色づきや映り方の違いを試す活動を行った。活動の様子は写真で記録するとともに、子どもの発言や表情をメモし、振り返りに活用できるようにした。

【⑤振り返る・共有する】

行った日中にクラス担任、主任、施設長等の保育者同士で感じたことや気づきを振り返ったり、写真を見て「どう感じていたか」などを子どもの目線に立って考えてみたりして振り返りを行った。話し合ったことをもとにすくわく会議で内容を周知した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

「こんなもの付けたら光がかっこいいかな?」「全部貼ったら光が見えなくなるかも」などと想像を膨らませ、近くの友だちと話しながら製作に取り組む姿が見られた。また、カラーセロファンの色だけでなく、ペンの色が映って見える様子や、画用紙で光が遮られる違いにも気づき、懐中電灯の角度を変えながら光の変化を確かめる姿もあった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

コップスタンドグラスに懐中電灯を当てて光を楽しむ姿が見られたことから、スタンドグラスに限らず、子どもが照らしたいものを自由に製作し、光を当てる活動へと広げていった。これまでの経験を踏まえ、「今度はこうしてみよう」と試しながら取り組む姿が見られ、経験を重ねる中で関わりが広がっていく様子がうかがえた。